

令和 3 年 6 月 19 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03385

研究課題名(和文) 唱導文献に基づく法会の総合的研究 寺院聖教調査の統合と復元的研究への展開

研究課題名(英文) A Comprehensive Study of Buddhist Rituals Based on Proselytization Texts (Shodo Bunken) : Advancing the Integrative and Reconstructive Research of Temple Archives

研究代表者

近本 謙介 (Chikamoto, Kensuke)

名古屋大学・人文学研究科・教授

研究者番号：90278870

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,800,000円

研究成果の概要(和文)：基盤調査寺院のうち金剛寺においては、『天野山金剛寺善本叢刊』第1期・第2期を刊行した。真福寺においては、悉皆調査の礎となる目録作成の基礎作業を完成した。称名寺(金沢文庫)においては、神祇関係の展示企画に貢献した。これらに基づき、寺院聖教調査の統合的研究として、東大寺・根来寺を介した聖教と僧侶のネットワークの根幹を明らかにした。さらに法会の復元的研究として、灌頂儀礼と論義に着目することで、その実態の肝要を解明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『天野山金剛寺善本叢刊』第1期・第2期の刊行により、多くの新出唱導文献の意義が明らかとなり、講式の分析により金剛寺における法会の実態が解明された。真福寺の聖教目録の基礎作業が完成したことにより、悉皆目録作成への展望が開けた。称名寺(金沢文庫)における神祇関係の展示企画への貢献により、次回の拡大展示企画への準備が整った。寺院聖教調査の統合的研究の成果として、東大寺・根来寺を介した金剛寺・真福寺聖教と僧侶のネットワークの根幹が明らかとなった。さらに法会の復元的研究の成果として、灌頂儀礼と論義の実態の肝要についての分析を通じて、修法と修学との関係性が明確になった。

研究成果の概要(英文)：Among those temples that formed the backbone of this study, from the archive at Kongoji, our research team published parts one and two of Amanosan kongoji zenponsokan. From Shinpukuji, we completed the crucial task of compiling a catalog of all archival materials that will serve as a foundation to all subsequent studies of this archive. At Shomyoji, we made key contributions for a public exhibition on the kami. Based on the studies mentioned above, our team contributed to the integrated study of temple archival investigations by illuminating a body of religious texts that were mediated by Todaiji and Negoroji as well as the core portion of a network of Buddhist monastics involved in the use and dissemination of these texts. Moreover, as a research project designed to reconstruct the Buddhist ritual environment, through a focus on abhiseka rites and monastic scholastic debates, our team was able to elucidate the essential characteristics of actual religious practice in this environment.

研究分野：日本文学

キーワード：唱導 寺院聖教 法会 儀礼 復元的研究 金剛寺 真福寺 称名寺

## 1. 研究開始当初の背景

本研究開始当初の国内・国外の研究背景は、以下のようにまとめられる。

近年の寺院聖教調査の飛躍的な進展には目を見張るものがあり、諸寺院の調査に基づく研究の深化によって、本研究を推進するための研究環境が整えられたことが学術的背景となっている。高山寺・醍醐寺等の継続的な調査と成果報告による学恩の多大であることは学会の常識であるが、本研究課題の研究代表者・研究分担者が携わる寺院調査においても、近年以下に記すような大きな進展と成果があった。

(1) 研究代表者も加わる金剛寺聖教調査においては、長年、後藤昭雄(大阪大学名誉教授)を中心とする調査が進められ、2015年3月に、『金剛寺経蔵聖教目録』第一分冊・第二分冊(文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、研究代表者:後藤昭雄)を刊行するに至った。この目録作成の過程で見いだされた唱導文献や、聖教奥書の分析を進める環境が整えられ、2015年4月からは、科学研究費補助金基盤研究(B)「金剛寺聖教・文書類を基盤とした社寺ネットワークの解明とその蔵書史的研究」(研究代表者:海野圭介)が始動し、本研究との相乗効果を得るべく研究代表者もこのプロジェクトに加わった。金剛寺に関しては、継続的調査・研究の展開が必要かつ有効な状況にあり、唱導文献を含む善本叢刊(勉誠出版)の刊行も決定した。

(2) 研究分担者阿部泰郎が主導する真福寺宝生院文庫の調査は、研究成果が『真福寺善本叢刊』(国文学研究資料館編、第1期12巻・第2期12巻)として結実し、研究者と社会に対する成果の発信・還元として開催された『大須観音展 いま開かれる、奇跡の文庫』(2012年12月1日~2013年1月14日 於名古屋博物館)も大きな反響を呼んだ。研究代表者はこの調査・研究に継続的に連なり、『東南院御前聖教目録』等から、南都殊に東大寺東南院聖教の伝播を考える上で大きな知見を得ており、東南院由来の唱導資料『類聚既験抄』等が発見・紹介されたことは、本研究の着想に大きな影響を与えた。真福寺聖教調査に関しては、黒板勝美博士作成目録に依拠した悉皆目録の再整備を推進中であり、豊富に蔵される唱導資料と聖教奥書分析等への展開のために、本研究課題の継続と発展が必要となった。

(3) 上記以外に、東大寺図書館・興福寺等、南都関係聖教の調査を軸として研究を推進してきたが、これら諸寺院の聖教調査を進める過程で、それぞれの寺院に所蔵される聖教相互の関係が、従来想定していた以上であることを発見した。たとえば、真福寺には東大寺東南院と関わる聖教が、第二世として南都から赴いた信瑜を介して多数伝わり、それらのなかには、先述した唱導資料『類聚既験抄』なども含まれている。一方、金剛寺には、真福寺蔵東南院関連聖教と書写の経緯における兄弟関係・親子関係に当たる写本が少なからず伝存し、それらの多くが金剛寺学頭禅恵を介するものであることが判明してきた。金剛寺聖教における禅恵本の位置づけも現在継続中の研究課題推進中に進んできており、上述の調査諸寺院の研究成果を統合していく環境が整った。

(4) 聖教の伝播を考える上でいまひとつ重要な拠点、称名寺(神奈川県立金沢文庫に伝来聖教を保管)である。称名寺聖教に安居院流唱導書が多数存することは周知であるが、近時、神奈川県立金沢文庫編『称名寺聖教 尊勝院弁曉説草 翻刻と解題』(2013年 勉誠出版)が刊行され、東大寺弁曉の唱導の実態と称名寺への伝来の様相が知られることとなった。称名寺には、興福寺貞慶関係や神祇関係の唱導資料も多数伝わっており、寺院間の聖教伝播を考える上で、不可欠な調査対象拠点である。特別展『仏教説話の世界』(2015年10月 於金沢文庫)では、同文庫の高橋悠介による千字文説草の意欲的な紹介がなされ、研究代表者もこの展示に研究成果を報告した。

(5) 海外における日本中世の法会研究の活況も、本研究の着想と深く結びついている。海外共同研究者ルチア・ドルチェ(ロンドン大学 SOAS)とは、ワークショップ「前近代の日本におけるあらたな法会・儀礼学の構築をめざして ことば・ほとけ・図像の交響」(2011年5月 於 SOAS)を共催するなど、問題意識と成果を共有してきた。また、海外共同研究者阿部龍一、メリッサ・マコーミック(共にハーバード大学)とは、国際研究集会「日本仏教研究の領域複合的解明の試み 汎宗派的考察への回路」(2012年5月 於ハーバード大学)の共催や、ハーバード大学・美術館蔵唱導文献・美術品調査(2015年3月)を通じて、在外資料に関する共同研究を推進してきた。

上述のような国内外の研究背景により、諸寺院調査の情報の統合が、唱導文献の伝播と法会の場での利用・享受を理解する上で必須となってきた。本研究は、如上の研究背景のもとに構想したものである。

## 2. 研究の目的

本研究は、近年飛躍的に進みつつある寺院聖教調査の成果を踏まえ、特に唱導文献に着目して、法会の総合的理解へと研究を深めることを構想するものである。寺院における唱導の世界が、中世文芸に与えた影響の深さについては贅言を要しないが、唱導資料そのものの構造分析や、寺院聖教の動態・伝播の様相を加味した上での研究が必要な状況であり、唱導資料研究の延長線上に立ち上げられるべき日本中世「法会学」の構築も、今後の課題である。本研究はそうした現状に鑑み、あらたな法会・唱導学の創成の提唱を目指している。法会は、ことば・ほとけ・図像等が

交響する総体の場であるが、人文学諸領域の研究者の力を結集しつつも、本研究が最も焦点化しようとするのは、法会における唱導のゆたかなことばの担った「文学」の領域の解明である。

### 3. 研究の方法

本研究は調査対象寺院の調査を基軸に据えつつ推進する方法をとるが、メンバーの全員が同一寺院に赴いて調査を実施するものではないため、統合的研究と復元的研究間の情報交換を密にし、各々の成果を全体で共有できるよう心がける。また、海外共同研究者を交えた、在外資料調査・研究成果発表の場として、展開・連携フィールドを国内外に確保する。

以下に、まず調査拠点寺院における研究方法を記し、続いて、寺院聖教調査の統合および唱導文献に基づく法会の総合的研究と復元的研究への展開の方法について記述する。

(1) 金剛寺関係の基盤研究を担う連携研究者として、海野圭介(国文学研究資料館)が研究組織に加わっている。金剛寺に関しては、前研究課題(基盤研究(B))「唱導文献に基づく法会の総合的研究」2013~2015年度)における目録整備を受けて、奥書類の分析を通じた寺院ネットワーク解明への環境が整った。この作業を進めると同時に、唱導文献を含む伝存聖教の分析の成果を、本研究期間に善本紹介のかたちで積極的に発信していく計画(勉強出版からの刊行)が決定済みである。寺院ネットワークの観点からは、南北朝期の禅恵と東大寺東南院との関わりを中心とする分析を、真福寺本との統合的研究として推進する。前研究課題推進中に、禅恵関係の奥書整備をすでに進めており、これを継続させて、他の聖教類をも含めた本格的な分析へと展開させていく。さらに、準備段階までの研究において、金剛寺と中央寺院との結びつきは、禅恵の時代をさかのぼり、院政期から鎌倉時代初めにかけて、興福寺とのあいだに緊密に結ばれていたことが判明しており、これを後世への継承として位置づける。従来看過されてきた金剛寺と南都をめぐる二つの時代の結びつきを、寺院ネットワークの継承と展開として捉えなおしたときに見いだされる成果は、本研究の意図する寺院調査の統合的研究の一翼を担うものとなる。

(2) 研究分担者阿部泰郎が主導してきた真福寺大須文庫の調査および研究成果報告を継続する。悉皆目録の整備への動きは必須の課題となっており、黒板勝美博士作成目録に依拠した悉皆目録の再整備を推進するため、独自の調査に加えて、現在の蔵書分類の元となっている黒板勝美氏等の調査による目録のデータベース化を同時に進めていく。これらの調査と作業を組み合わせることで、豊富に蔵される唱導資料と聖教奥書分析等への効率的な展開を図る。また、成果報告としては、これまでに『真福寺善本叢刊』第一期・第二期(臨川書店)の刊行を続けてきたが、本研究の準備段階から、研究分担者阿部を中心として、新たに禅籍・神道書をテーマとする善本叢刊の立案・計画が進みつつあり、これの実現に努める。また、金剛寺と真福寺の蔵書については、東大寺・根来寺を介した典籍と僧侶のネットワークの観点から分析すべき点が確認されているので、この点についても統合的研究を進めていく。

(3) 称名寺(金沢文庫)関係の基盤研究を担う連携研究者として、高橋悠介(神奈川県立金沢文庫・2016年に慶應義塾大学斯道文庫に転出)が研究組織に加わっている。称名寺(金沢文庫)に関しては、豊富に伝存する唱導文献に関する分析を、統合的研究の観点から実施する。連携研究者高橋は、称名寺伝来の千字文説草その他の唱導資料を網羅的に紹介し、その意義を見定めつつある。これらのなかには、称名寺二代長老鋸阿、三代長老湛睿によって書写・収集された資料が多数あり、南都で修学を積んだ鋸阿・湛睿による唱導文献の関東への伝播が確認され、東大寺・興福寺等南都寺院とのネットワークとして捉えるべきテーマとなっている。また、本研究が推進しようとする唱導と法会との相関を考える上においても、称名寺伝来唱導資料は重要な意義を有している。関東へと運ばれた唱導文献は、鎌倉における諸々の法会に用いられ、その享受のあとを、唱導文献の奥書や識語から知ることができる。そこから窺われるのは、一旦書写された唱導説話や靈験伝承が、全く別の場所・文脈のなかで再利用されていく、法会における唱導の生態とも言うべきものである。それはまさに、あらたな「文学」生成の現場でもある。そうした点を、あくまでも文献学を中心に据えつつ、解明していくことを意図している。

(4) 本研究は、寺院聖教調査の統合を進めることで、唱導文献に基づく法会の総合的研究と復元的研究への展開を図っている。寺院聖教調査の統合については、前研究課題の成果を踏まえて、分析の中心を金剛寺・真福寺・金沢文庫へと展開させ、それらの南都(東大寺・興福寺)や根来寺との結びつきを解明すべく、唱導文献の伝播とそれを担った僧侶たちの具体的な動き(たとえば、金剛寺:禅恵、金沢文庫:鋸阿・湛睿、東大寺:弁暁、真福寺:信瑜等)の解明を進める。また、安居院流『転法輪鈔』・東大寺東南院『類聚既驗抄』・興福寺貞慶『如意鈔』等所収の、法会の実態が窺われる唱導資料について解明を試みる。復元的研究への展開については、修法と修学の双方からのアプローチを試みることで、法会の場合や在り方の復元を試みる。その際、修法については灌頂儀礼等を分析対象とし、修学については諸宗にまたがる論義を具体的に検討する計画を立てている。また、唱導資料として、金剛寺には未紹介の講式も多数所蔵されることを確認しているため、これらの紹介と分析を通じて法会の復元的研究を進めることを企図している。地域の拠点寺院を横断する問題としては、ハーバード美術館に蔵される聖徳太子二歳像と西大寺真言律宗の観尊教団との関係について国際共同研究を予定している。その際には、称名寺に伝わる律関係の典籍が研究に大きな役割を果たすものと考えている。東アジアとの関係については、準備段階において、玄奘をテーマとする国際研究集会を連携研究者荒見泰史(広島大学)・本井牧子(筑波大学・2018年に京都府立大学に転出)とともに開催済みであり、この成果報告を唱導と法会の双方の視点から進め、さらなる展開を図る。

#### 4. 研究成果

本研究による主たる研究成果を、以下に分類しつつ列挙する。

(1) 基盤調査寺院のうち金剛寺においては、科研費による研究成果公開経費の助成を受けて、『天野山金剛寺善本叢刊』第1期(第1巻「漢学」第2巻「因縁・教化」2017年、勉誠出版)・第2期(第3巻「儀礼・音楽」第4巻「要文・経釈」第5巻「重書」2018年、勉誠出版)を刊行した。影印・翻刻・解題を付して、収録典籍の資料性と文化史的・文学史的価値を明らかにしたが、本研究課題と最も関わる研究成果として、多くの新出唱導文献の分析により、それらの意義が明らかとなった点、講式の分析から、請雨法を始めとする金剛寺における法会の実態・神祇信仰との関わりが解明された点がある。また、連携研究者海野圭介を研究代表者とする科研費基盤研究(B)「金剛寺摩尼院聖教の調査を基盤とした日本中世の宗教的知の流通と蔵書形成に関する研究」(2019~2022年度)との連携により、金剛寺聖教の調査と並行して摩尼院聖教の調査を進め、相互に関連する聖教の存在を確認した。全体の位置づけについては、現在継続中である。また、寺院間のネットワークを解明する作業として、金剛寺の蔵書の根幹を成した学頭禅恵と真福寺二世信瑜に着目することにより、東大寺と根来寺を介した聖教と僧侶のネットワークについて学会発表(近本「金剛寺聖教調査の展開と可能性 真福寺大須文庫調査との連携等」第2回 日本宗教文献調査学 合同研究集会 2018年)を行うとともに、その実態の一端を典籍の伝存状況に基づいて明らかにした。金剛寺聖教を中心とする唱導と法会との関連をめぐる写本学の地平を切り開く国際共同研究として、ハンブルク大学写本文化研究センターとの共催で、国際ワークショップ「日本宗教写本学」(2018年、於ハンブルク大学)を開催し、近本「金剛寺における法会と唱導の写本学」の招待講演を始め、研究分担者・連携研究者数名がそれぞれの研究成果を発表した。

(2) 基盤調査寺院のうち真福寺においては、研究分担者阿部泰郎が主導して、『真福寺善本叢刊』第3期「神道篇」全4巻(臨川書店)を企画し、第2巻「麗気記」(2019年3月)第1巻「神道古典」(2019年8月)を刊行済みであり、順次第3巻「御流神道」第4巻「中世神道資料集」が刊行予定である。真福寺に集積された神祇関係文献は、「麗気記」など儀海から宥恵への密教法流伝授に伴い書写された聖教の一部、「太神宮諸雜事記」もその一環を成すと思しい伊勢神道書や古事記と共に二世信瑜が東大寺東南院からもたらした文献群、そして第四世政祝が諸流の印信血脈を集成するのに伴う切紙類聚としての「諸大事」など、それぞれ文庫の形成に重要な役割を負った重書が、その根幹を成しており、『真福寺善本叢刊』神道篇はこれらを体系的に網羅して全容を示すものである。この成果は、継続中の調査と研究に引き継がれ、真福寺聖教の包蔵する深さを窺う要となるものである。また、継続的な調査に基づく悉皆目録整備に向けた作業の一環として、黒板勝美博士等による目録のデータベース化を完成させた。この成果は、悉皆目録完成に向けての礎となるものである。

(3) 基盤調査寺院のうち称名寺(神奈川県立金沢文庫)においては、神祇関係の展示企画に貢献することで、次回の拡大展示企画への準備を整えた(感染症の影響により、開催時期が延期された状態が続いている)。また、研究分担者阿部泰郎が主導して進めてきた、称名寺および真福寺に所蔵される主要な禅籍を中核とする『中世禅籍叢刊』全12巻・別巻1巻(臨川書店)が2019年9月をもって完成した。新出資料を含む従来知られていなかった禅籍の紹介・分析により、中世禅の新たな性格が明らかになるとともに、仏教学、国文学、日本史学など、諸分野にわたって画期的な意味を持つ成果の結実をみた。

(4) 法会の復元的研究の成果として、灌頂儀礼と論義の実態の肝要についての分析を通じて、修法と修学との関係性が明確になった。灌頂をめぐる問題については、カリフォルニア大学サンタバーバラ校との共催により、国際研究集会「The World of Abhiseka」(2018年、於カリフォルニア大学サンタバーバラ校)を開催し、数名の研究メンバーが参加して、密教・和歌・音楽等の多岐にわたる灌頂儀礼の分析と問題点を発表して、法会儀礼と修法の関係性を明らかにした。また、諸宗をめぐる論義における修学との関わりについては、コレージュ・ド・フランス国際学会「宗教遺産としての論義とそのテキスト」(2017年、於コレージュ・ド・フランス)において、研究メンバーの数名が研究発表を行なった。論義と法会をめぐる問題については、国際ワークショップ「Workshop on Medieval Japanese Religions Engi and Sutra Burial the decoration of sacred mountains in Japan: A New look at the peripheries of medieval Japanese Buddhism」(2018年、於ハーバード大学)における招待講演として、近本「明滅する縁起の文脈 『春日権現験記絵』における維摩会関連話をめぐって」を行い、維摩会と芸能との相関について明らかにした。論義をめぐる問題については、龍谷大学アジア仏教文化研究叢書『日本仏教と論義』(2020年、法蔵館)として成果が公刊された。

(5) 法会を宗教実践と捉える視点からの研究については、南都および関東と密接に関わる叡尊教団の尼僧たちによる宗教実践の宗教遺産であるハーバード美術館蔵聖徳太子二歳像および像内納入品の国際共同研究を、ハーバード大学・ハーバード美術館の研究者と継続しており、途中経過の成果報告を、近本「The Precepts and the Prince: Interpreting the Documents Sealed within the Sedgwick Sculpture of Prince Shotoku at Age Two」(ハーバード美術館国際研究フォーラム招待講演、2019年、於ハーバード美術館) 近本「北京・南都における律の展開と交差をめぐる史料と言説」(説話文学学会大会シンポジウム「律をめぐる宗教的環境と説話文学と

の架橋』、2019年、於名古屋大学)として行なった。また、研究分担者阿部と近本が進めてきた聖徳太子信仰をめぐる共同研究については、近本「聖徳太子転生言説の宗教史 ふたつの聖なる遺物をめぐる道長・頼通とのかかわりへの視座 」、阿部「聖徳太子恵思転生伝承の展開 衡山取経説話のテキスト諸位相」(共に『南岳衡山と聖徳太子信仰』所収 2018年、勉誠出版)がそれぞれの関心から太子の転生言説に着目し、太子をめぐる宗教遺産と時代との相関について新たな見取り図を提示した。

(6)本研究の発展的展開として設定される法会と唱導をめぐる諸問題については、研究分担者阿部と近本が、コロンビア大学との共催で、国際研究集会「境界・芸能・神仏」(2019年、於コロンビア大学)を開催し、近本「夢と託宣の体現する境界性のコスモロジー 『春日権現験記絵』 所有話を端緒として 」、唱導を象る夢や託宣の要素について、境界性の視点から問題提起を行なった。本研究集会には研究メンバー数名が参加して研究発表を行なったが、その成果は英語雑誌に掲載されることが決定している(感染症の影響により、刊行時期が当初の2021年から2022年に延期されている)。

(7)東アジア交流史の視点から唱導と法会をめぐる問題について探究する課題については、準備段階に開催した国際フォーラム「玄奘フォーラム」(2015年、於筑波大学東京キャンパス)の成果を刊行(勉誠出版)することが決定しており、研究期間中にその編集作業を進めてきたが、感染症の影響等により、刊行時期が2021年になっている。また、この研究課題の発展として、中央アジアにも視野を広げたプロジェクトを展開し、その共同研究の成果を『アジア遊学 ひと・もの・知の往来 : シルクロードの文化学』(2017年、勉誠出版)として公刊し、シルクロードに展開する交流史の諸相を明らかにし、書物や美術がそこにどのように関わっているのかについて多くの新たな視点を提示した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 近本謙介	4. 巻 9
2. 論文標題 文化史としての翻案と翻訳 西行の和歌と伝承をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 西行学	6. 最初と最後の頁 211-202
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近本謙介	4. 巻 無
2. 論文標題 聖徳太子転生言説の宗教史 ふたつの聖なる遺物をめぐる道長・頼通とのかかわりへの視座	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 南岳衡山と聖徳太子信仰	6. 最初と最後の頁 167 - 190
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近本謙介	4. 巻 無
2. 論文標題 桜の花をたてまつる西行 サントリー美術館蔵白描『西行物語絵巻』の画中歌をよむ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 特別展「西行」図録	6. 最初と最後の頁 260-263
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部泰郎	4. 巻 無
2. 論文標題 Liminality Reimagined: Tales of Trespassers into Sacred Space and Tainted Sages	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Studies in Japanese Literature and Culture National Institute of Japanese Literature	6. 最初と最後の頁 1 - 28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部泰郎	4. 巻 無
2. 論文標題 Buddhas from Across the Sea: The Transmission of Buddhism in Ancient and Medieval Temple Narratives(engi)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Sea and the Sacred in Japan, BLOOMSBURY ACADEMIC	6. 最初と最後の頁 119 - 134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部泰郎	4. 巻 無
2. 論文標題 中世禅の新たな視野－大須文庫悉皆調査とその展開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中外日報 (2019.1.19)	6. 最初と最後の頁 6 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部泰郎	4. 巻 無
2. 論文標題 Le Dojoji:Les metamorphoses de recits edifiants et darts de lascene-Les adaptations dan recit illustre dans le thearre no	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 CORPS ET MESSAGE, Editions Picquier	6. 最初と最後の頁 119 - 129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部泰郎	4. 巻 9
2. 論文標題 旅する詩人としての西行	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 西行学	6. 最初と最後の頁 1 - 5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部泰郎	4. 巻 53
2. 論文標題 シンポジウム 神仏の儀礼と宗教空間を担うもの(総括報告)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 1 - 5
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部泰郎	4. 巻 12
2. 論文標題 古典芸能研究の横断と総合(分担報告・討論)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神戸女子大学古典芸能センター紀要	6. 最初と最後の頁 25 - 55
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上島享	4. 巻 Vol.42-1.2
2. 論文標題 Kami and Buddhism in the No Miwa: Rethinking the Study of the Amalgamation of Kami and Buddhas(shinbutsu shugo)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Japanese Religious(NCC Center for the Study of Japanese Religions)	6. 最初と最後の頁 25-38
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近本 謙介	4. 巻 208
2. 論文標題 序文(ひと・もの・知の往来: シルクロードの文化学)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 4-14
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 近本 謙介	4. 巻 208
2. 論文標題 玄奘三蔵の記憶：『玄奘三蔵絵』と三宝伝来との相関	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 152-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部泰郎	4. 巻 27
2. 論文標題 中世の縁起・説話における『結界破り』と『穢れを負う聖』の伝承	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 宗教民俗研究	6. 最初と最後の頁 88-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上島享	4. 巻 -
2. 論文標題 中世真言寺院の教学とその歴史的変遷	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史のなかの根来寺	6. 最初と最後の頁 195-209
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部泰郎	4. 巻 188
2. 論文標題 日本における儀礼テキストの総合的研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴博研究報告 (共同研究『日本における儀礼テキストの総合的研究』)	6. 最初と最後の頁 15-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近本謙介	4. 巻 51
2. 論文標題 大般若経と春日若宮信仰 女院と尼僧をめぐる鎌倉仏教史	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 136-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部泰郎	4. 巻 51
2. 論文標題 春日若宮の宗教テキスト遺産としての大般若経と厨子	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 147-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部泰郎	4. 巻 48
2. 論文標題 異界との交信と宗教テキスト 中世日本の精神史の一断面	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本学研究	6. 最初と最後の頁 10-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上島享	4. 巻 64 (1)
2. 論文標題 「中世国内神名帳」の成立：中世神祇秩序の形成	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 神道史研究	6. 最初と最後の頁 2-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近本謙介	4. 巻 65(7)
2. 論文標題 危機に対峙する文芸の構想と変奏：藤末謙初における往生と汎宗派的志向をめぐって	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 2-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近本謙介	4. 巻 17
2. 論文標題 清水寺縁起の展開 東大寺図書館蔵『如意鈔』における五祖影像供養唱導をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本仏教総合研究	6. 最初と最後の頁 29 - 52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近本謙介	4. 巻 96(7)
2. 論文標題 平野多恵著『明恵 和歌と仏教の相克』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『國語と國文学』	6. 最初と最後の頁 67 - 73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部泰郎	4. 巻 946
2. 論文標題 菟足神社所蔵 富士山・熱田信仰史資料調査報告	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学苑	6. 最初と最後の頁 380 - 383
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計58件（うち招待講演 41件 / うち国際学会 44件）

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 金剛寺における法会と唱導の写本学
3. 学会等名 ドイツ・ハンブルグ大学国際写本研究所 国際ワークショップ「日本宗教写本学」（招待講演）（国際学会）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 La montagne de salut et de compassion qui enveloppe les enfers-Les liens entre le paradis de Kasuga et le monde des demons
3. 学会等名 スイス ミュンッハ大学メソ 国際研究集会「仏教とキリスト教における正統と異端」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 金剛寺聖教調査の展開と可能性 真福寺大須文庫調査との連携等
3. 学会等名 第2回 日本宗教文献調査学 合同研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 明滅する縁起の文脈 『春日権現験記絵』における維摩会関連話をめぐって
3. 学会等名 Workshop on Medieval Japanese Religions Engi and Sutra Burial the decoration of sacred mountains in Japan: A New look at the peripheries of medieval Japanese Buddhism (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 「ほとけには桜の花をたてまつれ」歌をめぐる西行と鳥羽院
3. 学会等名 和歌山県立博物館 連続講座「西行物語絵巻の世界を読む」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 神々に圍繞された山 - 春日浄土に展開する宗教世界
3. 学会等名 フランス・エクス・マルセイユ大学 国際研究集会「中世日本の大きな神々と小さな神々」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 「仏には桜の花をたてまつれ」歌による往生連鎖の構想 サントリー美術館蔵白描『西行物語絵巻』の画中歌を端緒として
3. 学会等名 日仏会館「中世説話集の西と東 ベルナール・フランク教授追悼討論会」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 「仏には桜の花をたてまつれ」歌の地平
3. 学会等名 名古屋大学国語国文学会 秋季大会シンポジウム「西行をめぐる文芸の越境と架橋 生誕九〇〇年の年に」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 聖なる遺物をめぐる聖徳太子の宗教学
3. 学会等名 インドネシア国立スラバヤ大学 UNESA・名古屋大学 NU：国際シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 聖徳太子信仰とその展開
3. 学会等名 赤城生涯学習館（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 夢と託宣の体現する境界性のコスモロジーー『春日権現験記絵』所有話を端緒としてー
3. 学会等名 コロンビア大学 国際研究集会「境界・芸能・神仏」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 西行をめぐる美術と文芸の連関とその展開 フリーア美術館所蔵西行関係絵画の分析の視点から
3. 学会等名 フリーア美術館日本美術ワークショップ（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 立ち現れる中世の境界宗教空間 鶴岡八幡宮・一遍・面掛行列
3. 学会等名 コロンビア大学 国際研究集会「境界・芸能・神仏」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 日本における灌頂の文化史
3. 学会等名 カリフォルニア州立大学サンタバーバラ校 国際研究集会「The World of Abhiseka」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 宗教テキスト遺産としての寺院聖教
3. 学会等名 ドイツ・ハンブルグ大学国際写本研究所 国際ワークショップ「日本宗教写本学」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 中世仏教における異端としての魔と天狗
3. 学会等名 スイス ミューザル大学MUN 国際研究集会「仏教とキリスト教における正統と異端」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 近世・近代における聖徳太子像の変貌
3. 学会等名 フランス・ストラスブール大学 国際研究集会「近代フランスと日本のナショナリズムと自己同一性」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 中世日本の小さな神々 若宮・童子神・護法たち
3. 学会等名 フランス・エクス・マルセイユ大学 国際研究集会「中世日本の大きな神々と小さな神々」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 儀礼が生みだす中世東国の宗教世界
3. 学会等名 神奈川県立歴史博物館「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 中世東国に顕われた神々 神々はいかに顕わされたか
3. 学会等名 神奈川県立金沢文庫「顕われた神々」(招待講演)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 中世熱田宮の世界像と宗教テキスト
3. 学会等名 熱田神宮文化講座（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 儀礼が生みだす中世東国の宗教世界
3. 学会等名 神奈川県立歴史博物館「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上島享
2. 発表標題 密教修法の構成・特質と中世社会 孔雀経法を通して
3. 学会等名 ハーバード大学ライシャワーセンターInternational Symposium:Medieval Japanese Buddhist Practices and Their Visual Art Expressions（日本仏教の展開とその造形（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 Tracing the Prophetic Narratives of a Buddhist Prince: the Construction of Myths and Legends of Shotoku Taishi in 11th-13th century Japan
3. 学会等名 Harvard Yenching Institute Visiting Scholar Talk（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 文化史としての翻案と翻訳 西行の和歌と伝承をめぐって
3. 学会等名 2017 EAJS International Conference in Lisbon Satellite Forum 900th Anniversary of Saigyō's Birth (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 Between Oral and Textual Transmissions of Buddhist Preaching Literature in Medieval Japan
3. 学会等名 XXth European Discourses on Japan 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 論義についてかたる南都の伝承 - 維摩会と『春日権現験記絵』との関連 -
3. 学会等名 コレージュ・ド・フランス国際学会「宗教遺産としての論義とそのテキスト」(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 清水寺縁起の展開 - 鎌倉時代初期の五祖影像供養唱導をめぐって
3. 学会等名 日本仏教総合研究学会第16回大会 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 春日をめぐるアーカイヴス
3. 学会等名 オーストリア アカデミー国際ワークショップ「文化遺産としてのアーカイヴス」(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 鎌倉期における南都の宗教的環境 能の基層とのかかわりから
3. 学会等名 能楽学会世阿弥忌セミナー(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 文化における翻案 聖徳太子転生言説をめぐる
3. 学会等名 タシケント国立東洋学大学国際シンポジウム「文化の対話と翻訳・翻案」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 聖徳太子をめぐる聖遺物と転生言説との相関
3. 学会等名 シンポジウム「南岳衡山と聖徳太子信仰」(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 論義と宗論の文化史
3. 学会等名 コレージュ・ド・フランス国際学会「宗教遺産としての論義とそのテキスト」(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 中世日本の宗教アーカイヴス
3. 学会等名 オーストリア アカデミ国際ワークショップ「文化遺産としてのアーカイヴス」(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 繋がれる聖地 法華経と太子転生説
3. 学会等名 シンポジウム「南岳衡山と聖徳太子信仰」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 道成寺説話の絵画と芸能への展開と翻訳
3. 学会等名 ストラスブール大学シンポジウム「演劇と身体化」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 聖徳太子と絵解きと芸能伝承
3. 学会等名 奈良県主催公開シンポジウム「聖徳太子シンポジウム-芸能のはじまりとその軌跡」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 越境する神々 『彦火火出見尊絵巻』と『神代物語』
3. 学会等名 コロンビア大学公開セミナー（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 聖徳太子二歳像胎内納入テキストの地平 叡尊と尼僧をめぐる律宗史の記憶
3. 学会等名 ハーバード美術館聖徳太子二歳像共同研究ワークショップ（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 ハーバード美術館蔵聖徳太子二歳像胎内納入宗教テキストの世界
3. 学会等名 ハーバード美術館聖徳太子二歳像共同研究ワークショップ（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 日本の仏教史をつくる宗論と中世文芸の創造
3. 学会等名 国立台湾大学日本研究センター第4回国際ワークショップ（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 海より来たる仏
3. 学会等名 UCSB Shinto Studies "Sea Religion in Japan"（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 穢れを負う聖たち 中世説話・縁起・僧伝に見る触穢をめぐる
3. 学会等名 日本宗教民俗学会第26回大会シンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 中世の夢と託宣
3. 学会等名 イスラエル日本学会国際シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 Triangulating Medieval Japanese Faith: Conceptualizing the Kami, Buddhas, and Evil in the Kasuga gongen genki e, Genjosanzo e, and Shichi tengu e
3. 学会等名 Association for Asian Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 歴史・文化史言説としての『西行物語絵巻』
3. 学会等名 国際ワークショップ「日本中世絵画資料研究の新展開」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 歴史叙述としての蓮胤の言説
3. 学会等名 国際ワークショップ「日本宗教文献における歴史叙述」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 国際日本研究の課題と展望
3. 学会等名 「国際日本研究」コンソーシアム環太平洋学術交流会議 - 環太平洋学術交流の可能性 - (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 経典から法会・芸能へ 日本における『維摩経』の享受と展開
3. 学会等名 中国人民大学・名古屋大学共催中日学会議「中国古文献の投影と展開 日本古典文学研究の新地平」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 アジア交流史の視座に基づく聖徳太子信仰の古代と中世
3. 学会等名 東アジア日本研究者協議会(EACJS)第四回国際学術大会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 西行歌の展開と転成 法会・説話・絵巻
3. 学会等名 「唱導文献に基づく法会の総合的研究 寺院聖教調査の統合と復元的研究への展開」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 北京・南都における律の展開と交差をめぐる史料と言説
3. 学会等名 説話文学学会大会シンポジウム「律をめぐる宗教的環境と説話文学との架橋」(招待講演)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 The Precepts and the Prince: Interpreting the Documents Sealed within the Sedgwick Sculpture of Prince Shotoku at Age Two
3. 学会等名 ハーバード美術館国際研究フォーラム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 中世日本における五蔵曼荼羅思想の形成と展開
3. 学会等名 INTERNATIONAL CONFERENCE “ ESOTERIC BUDDHISM AND EAST ASIAN SOCIETY（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 東アジアの宗教テキスト往還が生みだす文化遺産 聖徳太子と大須文庫を焦点として
3. 学会等名 第四回東アジア日本研究者協議会国際学術大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 中世の五蔵曼荼羅と五行祭文 東アジア密教の日本化から民俗宗教への展開
3. 学会等名 前近代日本宗教者の実用知：テキスト・図像（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 聖徳太子宗教テキスト文化遺産の探求
3. 学会等名 青山学院大学総合研究所・人文科学研究所 共催シンポジウム「東西の聖なるもの-比較文化論を拓く」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阿部泰郎
2. 発表標題 聖西行の駆使する歌の力 絵巻に表象される西行と一遍の詠歌活動
3. 学会等名 歌の力：西行生誕900年記念国際研究集会(西行学会2019年度タリン大会)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計18件

1. 著者名 阿部泰郎、江口啓子、鹿谷祐子、末松美咲、服部友香	4. 発行年 2019年
2. 出版社 笠間書院	5. 総ページ数 263
3. 書名 室町時代の女装少年×姫『ちごいま』絵巻の世界	

1. 著者名 名古屋大学人類文化遺産テキスト学研究センター、伊藤聡、岡田荘司、阿部泰郎、大東敬明	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 485
3. 書名 麗気記 真福寺善本叢刊第二期(神道篇)2	

1. 著者名 瀬谷貴之、三輪眞嗣、貫井裕画、阿部泰郎、阿部美香、猪瀬千尋、高橋悠介、牧野淳司、西岡芳文、恋田知子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 神奈川県立金沢文庫	5. 総ページ数 111
3. 書名 顕われた神々 中世の霊場と唱導	

1. 著者名 小林健二、落合博志、齋藤麻真理、海野圭介、恋田知子、阿部泰郎、阿部美香、猪瀬千尋、牧野敦司、中川真弓	4. 発行年 2018年
2. 出版社 人間文化研究機構国文学研究資料館	5. 総ページ数 38
3. 書名 祈りと救いの中世	

1. 著者名 井上卓哉、藤原重雄、大東敬明、伊藤聡、阿部泰郎、阿部美香、猪瀬千尋、三好俊徳	4. 発行年 2018年
2. 出版社 富士山かくや姫ミュージアム	5. 総ページ数 37
3. 書名 東泉院の神道資料 六所家総合調査だより 特別号	

1. 著者名 後藤昭雄、中原香苗、米田真理子、箕浦尚美、赤尾栄慶、宇都宮啓吾、海野圭介、近本謙介	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 1808
3. 書名 天野山金剛寺善本叢刊 第二期	

1. 著者名 阿部泰郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 604
3. 書名 中世日本の世界像	

1. 著者名 荒木浩・近本謙介編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 1360
3. 書名 天野山金剛寺善本叢刊 第一期（第二巻）	

1. 著者名 阿部泰郎・松尾恒一編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 国立歴史民俗博物館	5. 総ページ数 341
3. 書名 日本における儀礼テキストの総合的研究（歴博研究報告188）	

1. 著者名 阿部泰郎・石井修道・末木文美士・高橋秀榮・道津綾乃編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 674
3. 書名 中世禅籍叢刊 第十一巻 聖一派続	

1. 著者名 阿部泰郎・石井修道・末木文美士・高橋秀榮・道津綾乃編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 712
3. 書名 中世禅籍叢刊 第七巻 禅教交渉論	

1. 著者名 阿部泰郎・石井修道・末木文美士・高橋秀榮・道津綾乃編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 680
3. 書名 中世禅籍叢刊 第十一巻 聖一派	

1. 著者名 近本謙介	4. 発行年 2020年
2. 出版社 株式会社あるむ	5. 総ページ数 476
3. 書名 名古屋大学人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター編 『HERITEX』 Vol.3	

1. 著者名 近本謙介	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 624
3. 書名 日本仏教と論義	

1. 著者名 阿部泰郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 452
3. 書名 中世日本の王権神話	

1. 著者名 阿部泰郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 624
3. 書名 日本仏教と論義	

1. 著者名 阿部泰郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 608
3. 書名 中世禅への新視角 : 『中世禅籍叢刊』が開く世界	

1. 著者名 上島享	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 181
3. 書名 平泉の文化史 2 平泉の仏教史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	上島 享 (Uejima Susumu) (60285244)	京都大学・文学研究科・教授  (14301)	
研究分担者	阿部 泰郎 (Abe Yasuro) (60193009)	龍谷大学・文学部・教授  (34316)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	海野 圭介 (Unno Keisuke) (80346155)	国文学研究資料館・研究部・教授  (62608)	
連携研究者	高橋 悠介 (Takahashi Yusuke) (40551502)	慶應義塾大学・斯道文庫・准教授  (32612)	
連携研究者	藤岡 穰 (Fujioka Yutaka) (70314341)	大阪大学・文学研究科・教授  (14401)	
連携研究者	荒見 泰史 (Arami Hiroshi) (30383186)	広島大学・総合科学研究科・教授  (15401)	
連携研究者	苔米地 誠一 (Tomabechi Seiichi) (00340456)	大正大学・仏教学部・名誉教授  (32635)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	川崎 剛志 (Kawasaki Tsuyoshi)  (70281524)	就実大学・人文科学部・教授  (35307)	
連携研究者	本井 牧子 (Motoi Makiko)  (00410978)	京都府立大学・文学部・教授  (24302)	
連携研究者	松尾 恒一 (Matsuo Koichi)  (50286671)	国立歴史民俗博物館・民俗研究系・教授  (62501)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計17件

国際研究集会 名古屋大学・ハーバード大学国際ワークショップ「日本宗教研究の最前線」	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 名古屋大学・ハーバード大学国際ワークショップ「像内納入品研究の地平」	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 ドイツ・ハンブルグ大学国際写本研究所 国際ワークショップ「日本宗教写本学」	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Workshop on Medieval Japanese Religions Engi and Sutra Burial -the decoration of sacred mountains in Japan: A New look at the peripheries of medieval Japanese Buddhism-	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 国際研究集会「仏教と初代教における正統と異端」	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Harvard Yenching Institute Visiting Scholar Talk	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 2017 EAJS International Conference in Lisbon Satellite Forum 900th Anniversary of Saigyô's Birth	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 European Discourses on Japan 2017	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 日本仏教総合研究学会第16回大会	開催年 2017年～2017年



国際研究集会 能楽学会世阿弥忌セミナー	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 タシケント国立東洋学大学国際シンポジウム「文化の対話と翻訳・翻案」	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 ハーバード美術館聖徳太子二歳像共同研究ワークショップ	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 写本と版本	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 Workshop University of Tsukuba/ FU Berlin	開催年 2016年～2016年
国際研究集会 公開セミナー 御伽草子「二十四考」と近世の女子教訓書	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 律をめぐる宗教的環境と説話文学との架橋	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 公開セミナー 遼・非濁撰 『新編随願往生集』にみる往生 - 真福寺蔵『桑門戒珠集往生浄土伝』を中心にして -	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	ハーバード大学	コロンビア大学	UCサンタバーバラ	他2機関
ドイツ	ハンブルク大学	ハイデルベルク大学	ベルリン自由大学	
フランス	コレージュ・ドフランス	ストラスブール大学	国立東洋言語文化大学	他2機関
オーストリア	オーストリア国立アカデミー			
中国	中国人民大学	北京外国語大学	同済大	
エストニア	タリン大学			
ギリシャ	アテネ大学			
ウズベキスタン	タシケント国立東洋学大学			